

# 知的探究心と思考を深める英語授業

－ホロコーストを通して－

いぬい まどか・かとう あきひろ  
乾 まどか・加藤 晃浩

抄録：ここ10年での教え方の変化の中で、学校教育での英語科の役割を考え、検討し実践した。生徒を取り巻く現在の環境と、生徒が将来身を置く社会環境の中で、学校教育では何を身につけさせるべきかを検討し、将来の姿を見据えて生徒の行動に影響を与える教材を考えた。令和3年度66期生が高校1年時の実践報告である。

キーワード：英語教育、ホロコースト、協同学習、OECD Education 2030

## 1. はじめに

一人ひとりの生徒がどのような社会においても、自信を持って自らの力で進むべき道を見出さないといけない時代が目の前に見えている。OECD Education 2030で白井(2020)は、以下のようにVUCAな時代を記述している。未来における生徒の環境を見据えて、高等学校での英語教育がどのようなものであるべきかを考察し、実践した。

VUCAとは、volatile(変わりやすく)、uncertain(不確実で)、complex(複雑な)、and ambiguous(曖昧な)という語の頭文字をとった言葉であり、今後の時代を表す言葉と言われている。

- ・Volatile(変化のしやすさ)  
技術の発展など、我々を取り巻く変化のスピードや範囲が常に加速していること
- ・Uncertain(不確実さ)  
物事や状況が恒常的に変化し、将来何が起こるかを予測することも難しくなっていること
- ・Complex(複雑さ)  
移民の増加などさまざまな物事が、単一の要因ではなく相互に絡み合っている多数要因によって生じるため、より複雑化し解決策を見つけるのが難しくなっていること
- ・Ambiguous(曖昧さ)  
物事の意味や帰結が曖昧になり、明快な意思決定を行うのが難しくなっていること

新しい学習指導要領における学習評価の観点の一つに「態度」という項目がある。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の各観点についても理解しながら、各教科を通して身につけるべき資質・能力とはどのようなものであるのか、また、年度末の評価だけではなく日常の生徒の態度を支え、主体的な行動に導く教材とはどのようなものであるのかを考え、実践していく一年としたいと考えた。

## 2. 年間授業の流れ

高校1年生英語科は英語コミュニケーション(EC I)3単位、英語表現I(EE I)2単位の合計5単位である。その2科目で、共通して重きを置き、生徒に伝えたいことの一致を図りながら高校での生徒の英語の学びをスタートさせた。

以下がそのポイントである。

- ① オーセンティックな教材を使用する
- ② 生徒たちの心を揺さぶることにより、感性を磨き価値観を広げる
- ③ 4技能5領域を意識し、教科で作成したCAN-DO LISTを意識しつつ、生徒同士、生徒と教員の対話を重視した授業展開を考える



図1 年間の流れ

以上を踏まえ、2科目で年間を通してホロコーストについての学びの時間を取ることにした。軸としては、アンネ・フランク、オードリー・ヘップバーン、ハンナ・ブレイディが生徒たちと同年齢の時にどのような社会の中でいかに振る舞い、行動したかについて、知識を得るだけでなく自らの生き方を改めて考えるきっかけとした。

### 3. 教科の取り組み

#### 3-1. コミュニケーション英語（EC I）3単位

教科書題材をもとに生徒同士、時には教員も入って意見を交流し、互いに価値観を磨いていくことを授業では大切にしている。個性やこだわりを持った生徒が多いからこそ、11月に行ったPersuasive Speech（説得型スピーチ）では大きな盛り上がりを見せた。持つべき「考え方」や「習慣」に関して生徒が一人ひとり選ぶ好きな話題で聴衆を納得させることを活動の目的とし、生徒の独創性を活かしつつ論理構成力や英語発信力の向上を狙った。当日は意外にも多くの生徒がスピーチの内容や伝え方で笑いを取っており、クラスメイトの「聞く態度」と「発表意欲」の強い相関を授業者自身も実感した。今年度は英語表現と合同で1学期には暗唱大会を実施し、年間を通して5回映画を視聴させる時間を取った。メインとしてホロコーストを扱うことは、前年度の年明けから計画していた。

#### 3-2. 英語表現（EE I）2単位

教科書 MAINSTREAM ENGLISH EXPRESSION I（増進堂）を使用。それに加えて、副教材として三友社出版のHana's Suitcaseの冊子を入れた。年間を通じて、「学校でしか学べない学び方」をテーマに授業立案をした。マイケル・ヤング（Michael Young）の「私たちは学校に通わなければ経験できないことを経験させるために学校に通わせる」（Young, 2013）という主張を思い出す。教科書で日常的な内容を確認し、単語、発音、文法に抑えつつ、自分の価値観を振り返り、考える時間として英語の授業に取り組めるように授業立案した。特に、学習指導要領にある日常的な話題や社会的な話題について思考し、自分の考えを周りと共有できる力をつけるような授業展開を想像し立案した。特に、「話すこと（やり取り）」の以下のことに重点を置いていた。


学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

## 4. 帯活動

### 4-1. Monthly Songs

今年は高校1年生英語表現Iを担当することになった。帯活動は何をしようか、と悩んだ。コロナ禍ではあるが、コロナ禍だからこそ歌を歌おうと決めた。4、5月は*Stand By Me*の詩を学校で学び、家庭で歌うように伝えた。音楽との教科横断授業（英語科・音楽科）を意識し、それぞれの専門を活かすように連携した。英語科では発音に重視し、連結（Linking）、脱落（Reduction）、同化（Assimilation）について焦点をあて学び、歌を使って実践した。

6、7月には*Singing in the Rain*をひとりずつが離れた状態で、教室で歌った。（図2）。コロナ禍で日常の些細なことにも喜びを感じる瞬間だった。その頃になると、高校生活に慣れたのか「先生、僕たちで歌を選んでもいいですか？」という生徒たちが出てきて、*Taylor Swift*の*Shake it Off*の歌詞を自分たちで訳し、裏面は歌手について資料をつけてきた（図3）。生徒の「やりたい」という声は、自律学習者としての芽吹きであり、成長する過程で見過ごしてはならない部分である。

Singing In The Rain 雨に唄えば		
Doo-dloo-doo-doo-doo		
Doo-dloo-doo-doo-doo-doo		
Doo-dloo-doo-doo-doo-doo		
Doo-dloo-doo-doo-doo-doo...		
I'm singing in the rain	雨の中で歌ってるんだ	
Just singing in the rain	ただわけもなく歌ってるのさ	
What a glorious feelin'	なんて晴れやかな気分	
I'm happy again	また嬉しさがこみあげる	
I'm laughing at clouds	頭上の黒雲を	
So dark up above	笑ってやるさ	
The sun's in my heart	僕の心は太陽がいっぱい	
And I'm ready for love	恋の準備はできている	
Let the stormy clouds chase	嵐を呼ぶ雲を見て	
Everyone from the place	みんな逃げればいいさ	
Come on with the rain	雨なんかへっちゃらだ	
I've a smile on my face	顔には微笑みを浮かべ	
I walk down the lane	何度もしこみあげる嬉しさに	
With a happy refrain	僕はそのまま歩いていく	
Just singin',	わけもなく	
Singin' in the rain	雨の中を歌いながら	
Dancin' in the rain	雨の中を踊りながら	
Dee-ah dee-ah dee-ah	ディーア ディーア ディーア	
Dee-ah dee-ah dee-ah	ディーア ディーア ディーア	
I'm happy again!	また嬉しさがこみあげる！	
I'm singin' and dancin' in the rain!	雨の中を 僕は歌い踊るんだ！	
I'm dancin' and singin' in the rain...	雨の中を 僕は歌い踊るのさ...	

「雨に唄えば」(Singin' in the Rain)は、MGM(メトロ・ゴールドウィン・メイヤー社)の「ハリウッド・レビュー」(The Hollywood Revue of 1929)で使われ、その後MGMのテーマ・ソングとも言うべき歌になりました。「ハリウッド・レビュー」は当時のMGMに所属するスターたちの顔見世映画で、この中で、後にディズニー・アニメ「ピノキオ」でジムニー・クリケットの声を務めたクレシ・アイクことクリフ・エドワード(en:Cliff Edwards)が歌ってヒットしました。「ハリウッド・レビュー」が公開された1929年は、アメリカでは大恐慌(The Great Depression)の年で、この社会不安の時代を「雨」に喩え、その中でも明るく困難に立ち向かうという隠れたメッセージによって人々に勇気付ける意味がありました。MGMは家族で楽しめる良質な映画を提供することを目指した映画会社でしたので、この「雨に唄えば」を会社の精神として受け継いでゆきました。1952年のミュージカル映画の傑作「雨に唄えば」も第二次世界大戦によって荒廃した世界に向けた応援という意味もあり、ジーン・ケリーやデビー・レイノルズ、ドナルド・オコナーの名演もあってこの製作意図は人々に受け入れられて大ヒットとなりました。1950年代はMGMが撮った作品を次々と送り出した全盛時代ですが、その中でも映画「雨に唄えば」はMGMらしい誠意があるもののひとつでした。そこにはMGMという会社の精神を受け継いだスタッフ、キャストの製作姿勢が感じられました。その後MGMは映画産業の衰退とそれに反する大作主義の失敗などによる経営破綻をへて、経営権を移動することで今日その名前を残しています。MGMの映画ならば安心して子供にも見せられるという時代が確かにありました。

---

(あらすじ)サイレント映画全盛の時代、俳優ドン(ジーン・ケリー)と女優リナ・ラモント(ジーン・ヘイゲン)はドル箱の映画スターであり、大スター同士のカップルともてはやされていた<sup>[2]</sup>。しかし実際は、リナが一方的にドンに惚れているだけであった。そんな中、ドンに裏切られる女優キャシー(デビー・レイノルズ)と恋仲になってしまう。やがて長編映画として世界初のトーキー「ジャズ・シンガー」が大成功をおさめたことにより、ハリウッドにトーキーの波が押し寄せる。そこで彼らの映画会社では、当時作りかけだったドン&リナのサイレント映画を無理矢理トーキーにすることに決定。しかしながら、トーキーのノウハウを知らなかったことに加え、一番の問題はリナが強固な悪声の持ち主であったために映画の試写会は散々な結果に終わる。そんな映画を公開したら俳優人生が崩壊してしまうと危機を感じたドンとその親友コズモ(ドナルド・オコナー)、キャシーの三人は映画をミュージカルに作り替えることを思い立つ。あとはリナの声をどうするのか問題だったが、コズモのアイデアでキャシーがセリフも歌も全て吹き替えることになる。こうして振り直しは順調に進むが、吹き替えたリナは、怒りと嫉妬から契約を盾にキャシーを自分の吹替専門担当にして表に出られないようにしてしまう。映画の完成披露試写会が開かれ、ドンとリナの歌声は観客から喝采を受ける。すると椅子に乗ったリナが自らの声でスピーチをしてしまう。声が違うことを怪しんだ観客から、リナが生で歌うように迫られると、ドンと映画会社社長はリナを責めはめることを思いつく。そしてリナの背後でカーテンに隠れてキャシーが代わりに歌い、リナには歌っているフリをさせる。そしてキャシーの歌声で「雨に唄えば」が披露されると、ドンたちはカーテンを開き、キャシーが吹き替えていることを観客に見せてしまう。こうしてキャシーはスターの座を手に入れ、ドンとキャシーは結ばれる。(Wikipedia)

図2 教員が作成した Monthly Songs

# Shake it off

Taylor swift    2014

大体の人はそれに気づかないわ  
But I keep cruising Can't stop, won't stop moving  
でもそんなの関係ないわ 止まれないし 止まる気もない  
It's lie I got this music In my mind Saying, "It's gonna be alright"  
心の中にある曲が言うの 「きっと大丈夫」って  
※ 1 から ※ 2 まで  
Shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off

Hey, hey, hey  
Just think while you've been getting down and out about the liars and the dirty, dirty cheats of the world,  
考えてみて 世の中にいる嘘つきや汚い人で悩むぐらいなら  
You could've been getting down to this sick beat.  
「楽しく踊るほうが良くない？」って思わない？  
My ex-man brought his new girlfriend  
なんか元カレが新しい彼女をつれてきて  
She's like "Oh, my god!" but I'm just gonna shake.  
その子が「うわ、どうしょ〜」とか言うの でも私は気にしないわ  
And to the fella over there with the hella good hair  
それで向こうにいるイケてる髪の子に言うの  
Won't you come on over, baby? We can shake, shake, shake  
「こっちに来て一緒に踊らない？」って  
Yeah ohhh  
※ 1 から ※ 2 まで

Shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off

Shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off

Shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off,  
I, I, I shake it off, I shake it off

I never miss a beat I'm lightning on my feet  
何があっても法ます 足取りも軽く  
And that's what they don't see, mmm-mmm  
大体の人はそれに気づかない  
that's what they don't see, mmm-mmm  
大体の人はそれに気づかない  
I'm dancing on my own (dancing on my own)  
一人で踊っているけど  
I make the moves up as I go (moves up as I go)  
どんどん激しくなっていくけど  
And that's what they don't know, mmm-mmm  
大体の人はそれに気づかないわ  
that's what they don't know, mmm-mmm

※ 1 'Cause the players gonna play, play, play, play, play  
歌いたい人は歌い続けるし  
And the haters gonna hate, hate, hate, hate, hate  
嫉妬する人は嫉妬し続けるだろうし  
Baby, I'm just gonna shake, shake, shake, shake, shake  
でも私はこうやって踊り続けるし  
I shake it off, I shake it off  
I shake it off, I shake it off  
そんなの振り払うわ  
Heart-breakers gonna break, break, break, break, break  
夢中にさせておきながら振る人は誰かを傷つけ続けるし  
And the fakers gonna fake, fake, fake, fake, fake  
嘘をつく人は嘘をつき続けるし  
Baby, I'm just gonna shake, shake, shake, shake, shake  
でも私はこうやって踊り続けるし  
I shake it off, I shake it off  
I shake it off, I shake it off  
そんなの振り払うわ ※ 2

この曲はTaylor Swiftの5枚目のスタジオアルバム、『1989』のリードシングルである。2014年に発売され世界中で大ヒットしており、YouTubeのミュージックビデオの再生回数は現在30億回を記録している。USJで流れていたり、テレビでもBGMとして使われていたりすることがあるので知っている人も多いだろう。(そうであってほしいです。)

ところでこの曲を知っていた人はShake It Offというフレーズの意味を考えたことがあるだろうか。曲を知らなかった人も今考えてみて欲しい。直訳すれば「振り払ってそれを落とす」といった意味になるが、実はShake It Offは「水に流す」「気にしない」といった意味のスラングである。この曲について、テイラーはインタビューで



『(Shake It Off)は、批判やゴシップや侮辱など、私を見下げてきたものについての曲。もし、私が私らしくあることがそんなに気に障るんだしたら、もっとそうするし、あなたより楽しんでいるから関係ない。』

と話している。恋愛にかかわらず自分の経験を歌詞に書くことが多い彼女だが、これもそのうちのひとつといえるだろう。ミュージックビデオではテイラーがチアリーディング、バレリーナ、ヒップホップなどのダンスに挑戦するもの上手に出来ず、結局ファンの前で歌ったり踊ったりすることが彼女にとって1番だと気づく。実際にミュージックビデオの最後にはテイラーの実際のファンが登場し、リリリで楽しそうなファンとテイラーの姿が見られる。



～おまけ～  
テイラーは、アート作品には固有の価値があるものとして扱われるべきという強い考えを持っており、この曲の歌詞にある「This sick beat」というフレーズを商標登録している。彼女自身が商標で認められたグッズを発売するためである。世界中で人気のある彼女なら商標登録の有無にかかわらずグッズからたくさん利益をあげているに違いないが、その分違法のグッズが販売されやすいのも否定できない。曲を書いて歌を歌うだけでなくビジネスの面でもチャンス逃さない彼女は素晴らしい才能の持ち主であるといえるのではないかな。

図 3 生徒 2 名が作成した Monthly Songs

### 4-2. Case Study 「海外での驚き・不満の追体験学習」

英語を学んで世界中の人と友達になれば理想的ではあるが現実世界はそう簡単ではない。日本に住み続けていると普段は気がつかないような、日本でのみ通用する常識がある。生徒たちは将来、旅行や仕事で海外に赴く機会は増えるだろう。現地で日本での常識を無条件に当てはめようとするのではなく、その場で立ち止まって考え、行動を取れるようになって欲しい。自分の身の安全を守る行動を取ることや、発言して要求を口で伝えていくことの大切さを知って欲しい。そのような思いから海外経験を活かしてケーススタディを組み立てた。「もしあなたがこのような状況に遭遇したら、どのような行動を取るか。そして、どのような発言をするか。」という問いを基本とし、個人で考えた後にペアでアイデアを共有し、何人かはクラスで発表し多様な言動に関心を持った。日本から出たことがないという生徒にとっても追体験ができるよう2、3学期を通してストーリー仕立ての帯活動を設計した。

年度末に行ったアンケート調査では、教員の海外経験を使ってケーススタディを実践したことに関して84.5%が4（4段階の最高評価）、13.6%が3と多くの生徒が高評価をつけた。生徒の感想には、「先生が海外に行った時の話が毎回新鮮で面白かった。リスニングにもなりました。」「教科書だけを進める授業ではなく、先生のエピソードも聞けて実際に海外で使えるように英語を勉強したいという意欲が高まった。」「体験談などを混ぜながら教えて頂いたので、熟語や文法などをどういうときに使うのかがイメージしやすかった。」「教科書とかとは関係ない先生の経験の話が楽しかった。特に南米に行ってみたくなった。」「車の事故の話が一番印象に残った。ちゃんとシートベルトします。」などの記述があった。





## 5-2. 1冊の本と通しての調べ学習

2学期、生徒と「生きるってどういうことか」「どんな人生を送りたいか」について英語を通して共に学ぶ時間を設けた。三友社出版の *Hana's Suitcase* を協同学習の手法である Jigsaw 法でスタートさせた。附属の生徒は、議論を大事にする。むしろ、講義形式の授業には向かない。何か周りに発したい姿勢の生徒の集まりである。学力の上下差も激しく、協同学習（図8）で他者と議論し学び合えるのは大好きである。「Jigsaw しま～す」というと「いえ～い！」と嬉しい声が返ってくる。また、一人ひとりに責任を持つことは、彼らの自信に繋がっているように感じた。生徒たちの活動の声を聞いていると、「Hana ってスーツケースには書いてあるのに、なんでテキストでは Hana にしたんやろう？」「この作者って Hana の絵を見たときに手が震えたってあるけど、何で？」など内容にたくさんの疑問を持ち、友人の声に耳を傾けながらも「俺は（私は）、・・・」と主張している。そのようなテキストのグループでの読みをクラス全体でスライドを通して発表形式で共有した。発表に対して指示した内容は以下の点である。



図8 生徒の作品展示

- ① 内容に関して、読み進めていた時に、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに話して伝えること、またグループで理解に苦しんだ内容に関しては、聴衆にその疑問を投げかけ対話すること
- ② 語彙・文法に関して説明する（図9、10、11、12、13）  
特に地名や固有名詞については具体的に説明を行うこと  
文法事項は、工夫をし、身近な例を踏まえて解説を行うこと
- ③ 発表は1人に偏らず、必ずグループ全員が発表すること、その際にメモや原稿を準備しても構わない
- ④ 参考文献はスライドの最後のページに表記すること
- ⑤ 評価用紙を作成し、クラスに配布してそれぞれの発表についての意見をクラスに求めること



図9 生徒のスライド

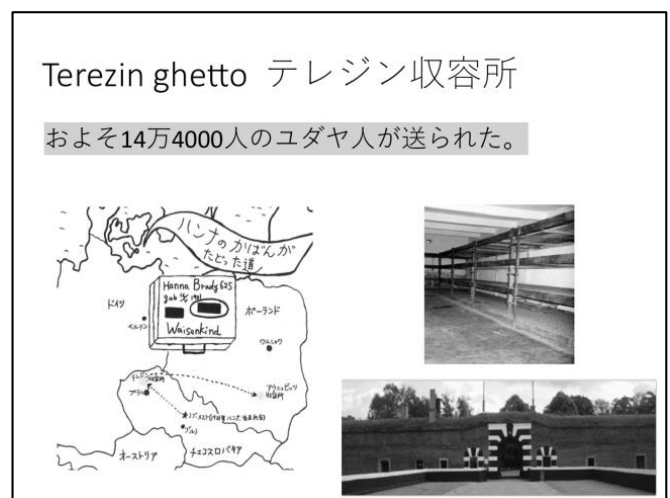


図10 生徒のスライド

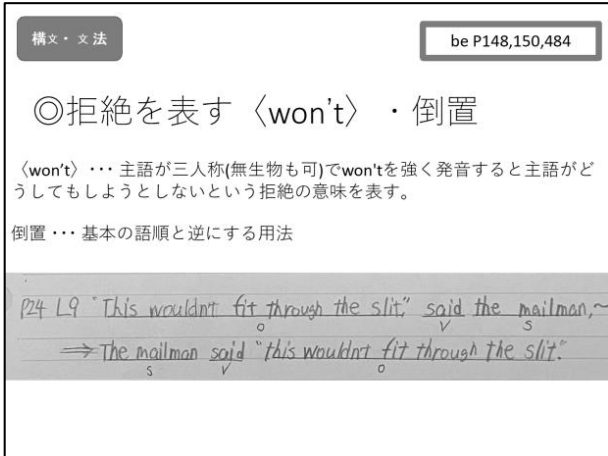


図 11 生徒の作品展示

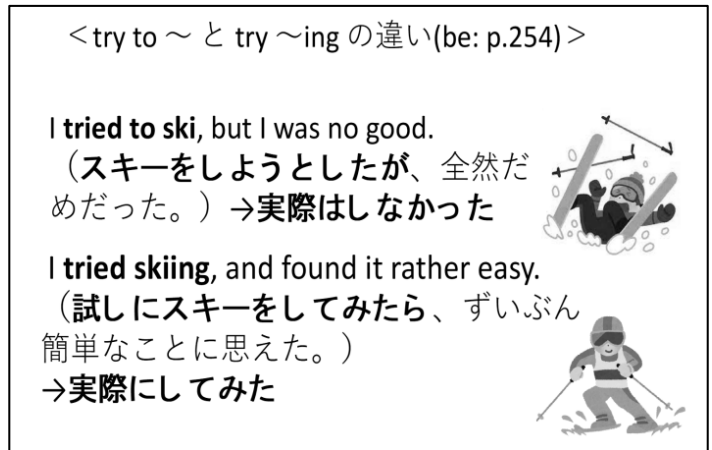


図 12 生徒の作品展示

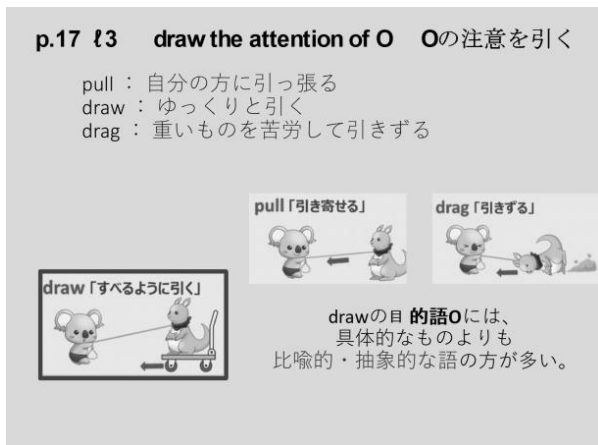


図 13 生徒の作品展示

発表についてはグループごとにユニークさが現れていた。その中で、あるクラスでは、図 11 のようにノートに例文を書き、自分で解釈した上で、スライドに貼り付ける方法が生徒たちには人気があり、その後の発表はノートで一度予習をしたものをスライドに貼り付ける方法が目立つようになった。また、イメージをつけるために図を入れることで、その後の文法テストの際に、絵を思い出し文法解説と結びつけて覚えている生徒が目立った。それぞれが、意見や主張、理由や根拠をどの順番でどのように説明すれば相手に伝わるかということを考えながらスライド作成に取り掛かっていた。そのため、未既習事項に関しても、今回のテキストを通して知る文法や専門用語に触れる機会になった。

## 6. アウシュヴィッツ強制収容所について

教員が現地で撮影した写真を見せながら、博物館からいただいたパンフレットを基に英語で情報を伝えていった（図 14、15、16、17、18、19）。途中で、アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館で販売されていた図書や施設内の案内板をもとに該当箇所を決め、ワークシートを使って生徒は読解を行った（図 20）。内容は、Selection と Experiment である。

1932 年 7 月の総選挙でナチスが大勝利を収め、1933 年にヒトラーが首相、その後総統（フューラー）となり、全権委任法を成立させた。秘密警察（ゲシュタポ）や突撃隊（SA）、親衛隊（SS）などの特殊機関があり、SS は暴力支配の中核で、ユダヤ人の絶滅政策を実施した。収容所に到着した人々は自分の財産の最も価値のあるものを持参していた。SS 将校と SS 医師がここで選別（Selection）を行った。労働できそうな人たちは収容所に入れられ、仕事ができないと判断された人たち、つまり死を選択された人は「シャワーを浴びさせる」と騙されてガス室に送られ、ファイルにも登録されずに 15 分～20 分の間に窒息して死んでいった。運ばれてきた人間の 70 から 75% がガス室へ送られたという。死体から金歯が抜かれ、髪の毛が切られ、指輪とピアスが取られた。そして死体は 1 階にあった焼却炉へ、そして死体が多すぎるときには、積み上げるために外へ運ばれた。双子は医学実験（Experiment）の材料にされた。収容所内で労働を強いられた人たちは洋服とその他のものを取り上げられ、髪を切られ、囚人番号を付けられ登録された。下着は何週間ごとに、または何カ月ごとに着替えを貰えることが出来たが、洗濯することはできず、いろいろな伝染病が流行する原因となった。むち打ち、絞首、銃殺などの懲罰があり、その理由は労働時間中の排泄、自分の金歯を一切れのパンと交換すること、仕事の能率、脱走を試みることなどであった。



以上のような事実を踏まえ、授業の最後には“What do you think is important or necessary as a human being to avoid such a big mistake?”～「どういったときに人は人としての判断を誤るのか？」～という問い（図21）について考えた。Google Formsで提出された生徒の考えの一部を以下に挙げる。お題そのものをメタ的に捉えるなど、ユニークな意見も含めて様々な角度からの回答が集まった。共有可としてくれたものは全生徒に共有し「是非皆には、全体意識を持ち、おかしな方向に進みそうなどときには声を上げられる人になって欲しい」と教員からも言葉を添えた。

#### 生徒の考え：

- その行動をとった時に得られるものが自分にとって最も大切なものの時
- 自分たちが危機な状況に立った時や、自分たちに不利益なことが起こりそうな時、それを改善するために、戦争などの道を選んでしまい、人としての判断をできなくなってしまうと思う。
- 同調圧力や、上からの圧力、そうしないと自分が殺されてしまう状況に追い込まれた時。
- 正しい判断をする時間が与えられず、お互いに見張りあって上からの指示に従うとき。
- 孤独な時。周りの人の支えや助言がなくなり、1人になった時には誤った判断や独断的な判断で周囲を不幸にしてしまう恐れがある。また、非常事態やこれまでに経験したことの無い状況に陥った時にも人は冷静な判断が出来ずに混乱してしまう。常に冷静ではいられないかもしれないがそんな時に周囲の人が助けてくれるような環境ならば大丈夫だと思う。
- 人としての判断というものはそもそも何なのか。その判断基準になる価値観は経験によって積み重ねられるもので、その経験が違っているだけだと思う。ナチスがユダヤ人の人たちを人と思わない様な政策を実行したのは国民を団結させるという観点で最善だったかもしれないし、現代の日本で魚を抵抗なく食べる事とさして変わらないと思う。
- 考えることをやめてしまった時
- 人によっては違うが中には殺人や虐殺に対して悪意を持っていないことだってある。それを自分たちは世間一般的に判断の誤りとしているが、その人達にとって判断の誤りだったかどうかは正直分からない。
- 既に判断を誤っている人に盲信している時。
- 自分の意見を正しいと信じきってしまった時。人の意見に耳を傾けず自分が正義だと確信してしまったら、自分と相対する意見を持った人は完全に悪だと考えてしまい、悪は排除すべきだという考えに至ってしまう。
- 自分のことしか見えなくなってしまう時、もしくは1つのことしか見えなくなった時だと思います。どうしても人は大きい失敗をおかします。それでも、周りの人の気持ちや周りの意見を考えれば行動を改めることが出来ます。それを出来なくなったとき、人は自分の利益のみを優先し、判断を誤りつづけるのです。でもやっぱり、私がどんなに暴走しても友達や家族は止めてくれると思います。ヒトラーは止めてくれる人がいなかったのだと思います。不必要なほどの権力を持ってしまい、それを乱用してしまったのです。どんなときも、色んな意見に耳を傾けるのは大切だと思います。
- まず、「人としての判断を誤っている」という判断の基準が分からない。例えば、窃盗というものに関して自分たちから見ればそれは「判断を間違えている」という認識になるだろうが、もし窃盗を行った犯人が明日も生きられるか分からないほど生活に困窮していたら、それが自分の意志や行動とは無関係にそんな境遇に陥ったとすれば、或いは第三者に「やってこい、こなければ……」と脅迫されていたら、それは人としての判断を間違えていると言えるだろうか。むしろ、どちらも「自分の身を守る」という当たり前のことをしているのであって「人としての判断を誤った」とは言えないのではないだろうか。よって、ある行為に関して「人として間違っている」と第三者が結論付けるのは不可能に近い。そのため、この議題に答えはない。
- 追い込まれて余裕がなくなると判断を誤りうると思う。そのような状況下においても冷静に客観的に物事を見て、人として正しい判断をすることがもちろん大切だが、それを行える人がどれほどいるのかというのも問題である。





図 14 収容所入り口



図 15 電気が通っていた有刺鉄線



図 16 絞首台



図 17 チクロンB（殺虫剤）の缶



図 18 積み上げられたカバン



図 19 積み上げられた靴

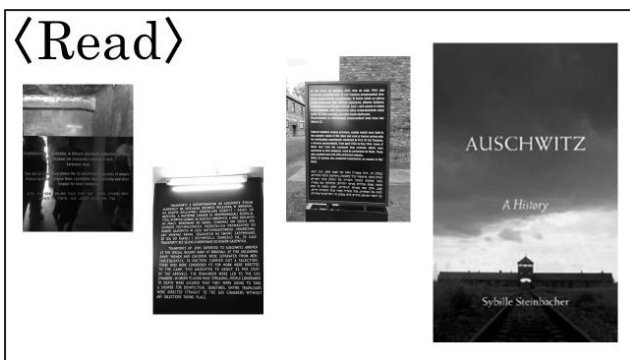


図 20 読解に利用した案内板と図書

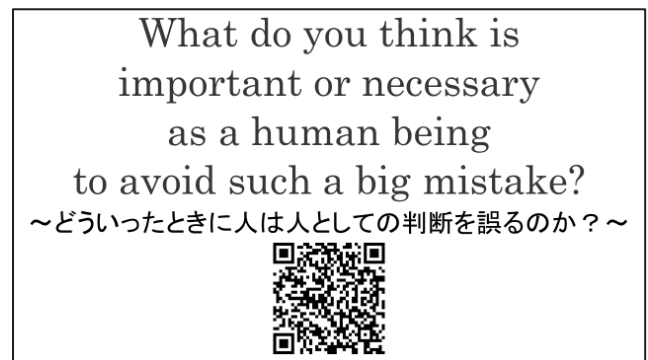


図 21 問いのスライド

## 7. 講演会実施（3月）

NP0 法人ホロコースト教育資料センター代表の石岡史子氏（図22）を東京からお招きし、2時間の講演会を実施した。講演会の冒頭では1枚の写真（図23）がスライドに映し出された。内から湧いてくる様々な疑問について、生徒は思い思いの角度から「問い」として言語化した。会場全体でその「問い」を活発に共有し合い、生徒たちは自分では思いつかなかった互いの「問い」から新たな視点を得ていった。その写真の男性が「人種衛生士」であることを知った後、ホロコーストについて概観を振り返るばかりではなく、当時の現地の一人ひとりの立場に焦点を当て、「自分だったら」と想像を膨らませながら歴史をたどった。例えば、当時貨車を運転していた人やタイムテーブルを作成していた人などは、個人単位では自分に与えられた仕事のみを罪悪感なく行っていたのではないかと、という考察である。生徒たちは、全体像をつかまず何も疑問を持たずに、何となく流されることの恐ろしさを知った。このことはその場にいた教員の心にも響いた。人間には次のような傾向がある。社会は人間にラベルを貼ろうとする、人間は他者を非難することで自分を守ろうとする、そして、人間は一人でいるときはできることでも集団になるとできなくなってしまうことがある。我々は、この講演会をきっかけに、問い持ち続けることの大切さや、自分の頭で考えることの重要性を再確認した。

石岡さんがトランク（ハンナのカバンの複製）を持参してくださり、開けた時に匂いについて言及された（図24）。カビ臭いその匂いに時代を飛び越えた匂いに感動した。このトランクを石岡さんは大事にされており、運搬についてもご自分でされている様子を見て、生徒たちは貴重なものを目の前にして感動していた。中にはテキストを読み終えてすぐに講演会をして欲しかったという感想もあったが、概ね直接講演いただくことがよかったと回答している。



図22 講演会の様子

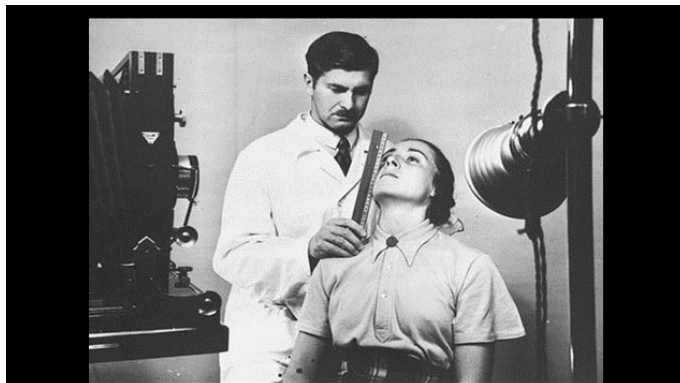


図23 講演会での1枚の写真



図24 石岡さんとトランク

### ハンナのカバンを終えて（感想）

石岡さんが伝えたいことの核心に迫る話が聞けたのは、あらかじめ本を読んでいたからだと思う。

全ページを理解するにはとても膨大な時間と労力がかかるが、班に分かれてプレゼン形式で発表する事で大事なポイントを分かりやすく抑えることが出来たので良かったです。

自分たちで能動的に調べることで理解を深めてから、実際に講演をきくと調べた以上のものが得られたからです。

何事も、自分でまず考えて表現するというのが人間の強みだと思うから

英語に限らず様々なことを学べたから

人の価値に関して、合理性・生産性を求めてはいけない。合理性・生産性を求めた結果、優性思想が生まれたのだから、価値をつけてはいけないし、人の能力でランク付けするのは良くない。

自分の考えた意見を自分の中で止めておくのではなく、自発的に自分の意見を伝えること。

図25 感想文より



## 8. まとめ

ジョン・ハッティ（2008）は、「教育的な到達度は成果重視であるだけではなく、過程重視でもあり、パーソナリティの側面を想起させる。」と述べている。成績表に最終的に載せられる数字も一つの評価であり生徒の学習を支えるのは間違いないが、数字だけを追いかけることよりも生徒が課題に自発的に取り組んだか、エンゲージしたかということに焦点を当てて授業を立案したい。

では、英語の授業をどのように展開するのがいいのか。過去には、専ら文法訳読式の授業を授け、内容は二の次という時代があった。その後、コミュニケーション力を高めるために4技能をバランスよく育成することも重要視された。しかし、英語の授業は「生徒に英語の力をつけること」だけが目的ではない、というのは当然のことである。英語はあくまでも「ことば」であり、我々英語科教員は言語教育を行っているのである。言語教育は、内容があって初めてその価値が成立する。もちろん、時には「ことば」そのものに意識が向けられ、その特性や奥深さに注目するような授業があってもいい。母語である日本語固有の特徴に気付くことも英語教育の一つの醍醐味である。しかし、学校教育での英語授業には、英語力をつけさせることや「ことば」そのものに着目させること以外にも大切なことがある。それは、生徒が「題材」を通して思考を深め、感性を磨き、人としてのあり方を考えることである。「題材」との対話をはじめ多様な人と協同する中で、他者との意見不一致を実感し他者を尊重する心や納得解を見出す力も育てていくことができる。だからこそ「題材」の内容は授業の要であり、その「題材」について生徒に当事者意識を持たせる工夫が必要である。できれば知的探究心をくすぐるような「本物の教材」を用意できることが望ましい。今回はホロコーストを「題材」とし、生徒にとって高校時代に「生き方」を考えるきっかけとなった。一連の英語の授業から生徒の心に将来にわたって残り続ける部分があることを願う。英語が異世界への窓となる魅力を知った生徒たちは英語学習に動機づけられ、自律的に学習を進めていくに違いない。今後も生徒の心を揺さぶる実践を行い、生徒の意欲や可能性を最大限に引き出し、自分で考え行動することのできる人を育てていきたい。VUCAな社会が差し迫っているのならば、周りとの協同する中での学びは、強さであると考え。その実現には、AAR（Anticipation-Action-Reflection）サイクルを丁寧に繰り返すことを促し、その都度、振り返りの時間を大切に慌てさせずに進めていくことだと考える。生徒にとって協同学習のスタイルは本校では定着してきている。しかし同時に、教員の協同学習もまだまだ必要性を感じる。生徒たちは、教員の学ぶ姿をよく見ており、その様子から安心感を得て、自らの学びの姿勢に影響を与えるという振り返りもあった。

フランス語で「完全な」という意味の、parfait（パルフェ、パフェ）。日本では背の高いグラスに、アイスクリーム、フルーツを主体として、その他の甘い具材を加えたデザートとして使われている単語である。さまざまな果物がそれぞれの特徴を活かし、一つの器に収まり「完全なもの」となっている。一人一人が不完全であっても、周りとの協同を通して完全なるものに近づくことができることを生徒には伝えていきたい。

学校教育で受けた学びの姿勢が将来の生徒の姿勢につながることを期待している。



仲間との学びは 社会に出た時に役立つ

図 26 協同学習の様子



## 参考文献

- 石岡史子・安藤富雄（2003）『Hana's Suitcase』三友出版
- John Hattie、Klaus Zierer(2021)『可視化された授業づくりの10の秘訣』北大路書房
- 国立オシフィエンチム博物館（2013）『アウシュヴィッツ ビルケナウ 案内書』
- 黒川万千代（2009）『アンネ・フランク その15年の生涯』合同出版
- 佐藤学（2021）『学びの共同体の創造～探求と協同へ～』小学館
- 白井俊（2020）『OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来』ミネルバ書房
- Sybille Steinbacker(2004). 『AUSCHWITZ A History』PENGUIN BOOKS
- 文部科学省認定済教科書（平成29年）『MAINSTEAM ENGLISH EXPRESSION I』増進堂
- 文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説外国語編英語編』開隆堂出版
- 三浦孝・弘山貞夫・中嶋洋一編（2002）『だから英語は教育なんだ』研究社
- Young, M. (2013). Overcoming the crisis in curriculum theory: A knowledge-based approach.  
Journal of Curriculum Studies, 45(2), 101-118.

## English Classes to Deepen Intellectual Inquiry and Thinking Through the Holocaust

INUI Madoka ・ KATO Akihiro

**Abstract:** In the changes in teaching methods over the past decades, the role of the English department in school education was being considered, examined, and practiced. In the current environment surrounding students and the social environment in which they will find themselves in the future, this study focusses on supporting the behavior of students in high school with a view to what they will learn and what they will become in the future. This is a report on the practice of the 66th students in 2021, when they were in their first year of high school.

**Key Words:** English education, Holocaust, collaborative learning, OECD Education 2030